

中学校における学習・行動の評価としての通知表所見の分析

Analysis of School Report Card Comments as the Evaluation of Learning and Behavior in the Junior High School

山崎 宣次^{*1}, 掛川 淳一^{*2}, 小川 修史^{*2},
 加藤 直樹^{*3}, 横山 隆光^{*4} 興戸 律子^{*3}, 森広 浩一郎^{*2}
 Senji YAMAZAKI^{*1}, Junichi KAKEGAWA^{*2}, Hisashi OGAWA^{*2},
 Naoki KATO^{*3}, Takamitsu YOKOYAMA^{*4}, Ritsuko OKIDO^{*3}, Koichiro MORIHIRO^{*2}
^{*1}山梨県立大学, ^{*2}兵庫教育大学, ^{*3}岐阜大学, ^{*4}岐阜女子大学
^{*1}Yamanashi Prefectural University, ^{*2}Hyogo University of Teacher Education,
^{*3}Gifu University, ^{*4}Gifu Women's University
 Email: s-yamazaki@yamanashi-ken.ac.jp

あらまし：通知表の所見は、仮に経験があっても現場の教員にとって非常に負担の大きい校務である。そこで筆者らは教員の通知表所見記述支援を目指し、所見の特徴単語抽出をするなどの分析をしてきた。しかし、そのほとんどは小学校の通知表所見が対象で、中学校での所見はほとんど分析してこなかった。今回、中学校の通知表所見を分析し、小学校の場合と同じように所見の記述支援に向けての分析結果を報告する。

キーワード：中学校，通知表，テキストマイニング，教師教育，学習行動評価

1. はじめに

著者らは小学校における通知表所見の記述支援を目指し^{(1)~(10)}、自分が所見で多用する単語や自分以外の他の教員が多用する特徴単語をその教員に提示することで、所見の記述支援の可能性が示唆された⁽⁶⁾。

しかし、中学校の通知表の所見についてはデータが入手困難であったこともあり、ほとんど分析をしてこなかった。中学校では教科担任制であるため、小学校担任のように学校生活における学級生徒の全ての様子を担当が見ているわけではない。それを補うために、教科担任から情報を得ることなどで所見の参考にしていると予想される。しかし、これらの情報はあくまで担任自らがその生徒を直接観察評価したわけではないため、どうしても学習面では学級担任が担当している教科や特別活動、道徳など、行動面では給食、清掃活動などの記述に偏ることが予想される。このような意味でも、中学校における通知表所見の記述支援は、小学校以上に求められると考えられる。

なお、最近働き方改革によって、様々な校務が省力化される傾向にあり、負担感が高い通知表の所見は毎学期の記述ではなく、回数が減らされる傾向が見受けられる。仮に、通知表の所見欄が全学期でなくなったとしても、学習指導要録の所見は必ずあり、今後、特別な教科道徳の評価は所見として記述しなければならなくなってくる。

2. 通知表所見データの全体的な傾向

今回入手できた所見データは、同一都道府県の全校生徒数 A 中学校：25 人、B 中学校：77 人といった小規模の 2 つの中学校である。

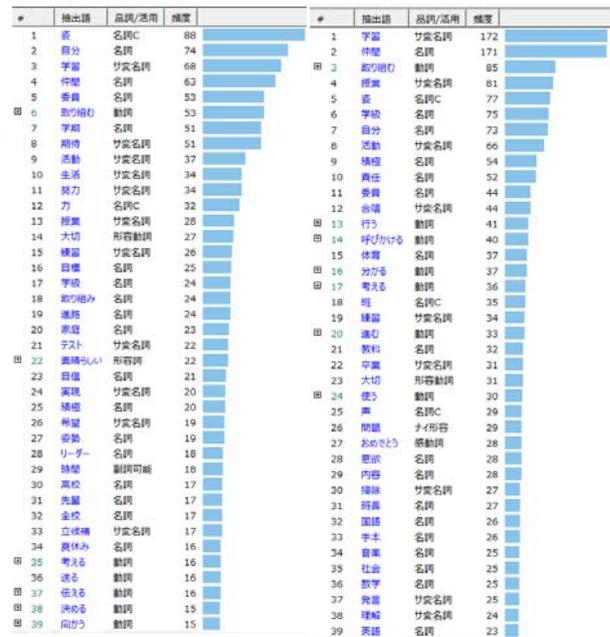


図 1 2 校の出現頻度の多い単語

2 つの学校の全体的な傾向を見るため、KH_Coder を用いた出現頻度の高い抽出語リストが図 1 である。右が A 中学校、左が B 中学校である。両校共に姿・自分・学習・仲間・取り組む・活動といった単語が上位 10 位を占めていた。これらは、「～取り組む姿が見られました」・「自分から引き受け」・「仲間に働きかけ」・「練習に取り組んだり」・「新しい活動を取り入れたり」などと、学級の仲間との関わりや主体性などの評価として使用されることが多かった。特に B 中学校では体育や国語などの具体的な教科で評価する場面も見られたが、A 中学校では、「授業中の

交流では、自分の考えをそのまま伝えるのではなく・・・」など、各授業全般にかかわる評価を記述するものが多かった。

3. 特徴単語の抽出

2校6名の担任が記述した所見において、同学年の担任同士で小川ら⁽¹¹⁾の手法を使って特徴単語を抽出したものが表1である。学年が違くと学年固有の単語が不要語と抽出されやすいことは、小学校の場合で確認できているため⁽⁴⁾、同学年で比較した。

表1 抽出された同学年担任同士の特徴単語

A 中学校同学年担任が多用する単語	B 中学校同学年の教員が多用する単語
期待・学期・貴方・先輩・(やり)切る・来年度・生活・丁寧	班・合唱・単元・英語・取り組み・向上
貴方・期待・全校・立候補・堂々・選挙	班・積極・行う・授業・考える・国語・数学・分かる・深める
欲しい・努力・力・進路・楽器・実現・希望・貴方・高校・夏休み・目標・充実・相談	責任・学級・面・教科・内容・進む・意欲・体育

表1のように、単語数は少ないが特徴単語を抽出することはできた。A中学校では「貴方」という単語がどの担任も多用されており、「・・・が、あなたの素晴らしいところです」などと使用されている。このように3名に共通する単語は、学校で書き方がある程度指導されているとも考えられる。

これら抽出された特徴単語を、各担任に提示する。自分が多用する単語については本人が自覚しているかどうか。また、自分はあまり使用しないが他の教員が多用している単語は、参考にして語彙を増やすかどうか。これらを各教員が判断し、気付きを与えるのが本記述支援システムである。

4. まとめと今後の課題

今回、中学校においても小学校の所見と同様に特徴単語は抽出された。しかし、今回入手できたデータからは、中学校の所見は小学校の所見ほど各教科の具体的な内容まで記述することは少なく、教科での仲間との関わりや各生徒の全体的な頑張りについての記述が多く見られた。小学校担任ほど自分の学級の生徒を具体的に評価する場が少ないためと考えられる。

その意味でも、他の教員が多用する特徴単語から生徒を評価する観点を増やすことは今後多面的に生徒を評価することに繋がると考えられる。現在、この記述支援システムをタブレット端末等で提示できるように開発している。

今回、小規模の学校であったため、所見データそのものが少なく、特に他の教員が多用する特徴単語の抽出が少なかった。今後、より多くの所見データから特徴単語を抽出し、小学校だけでなく、中学校においても通知表所見記述支援システムを構築していきたい。

参考文献

- (1) 山崎宣次, 森広浩一郎, 掛川淳一, 中間玲子, 小川修史, 加藤直樹, 日比光治, 興戸律子: “小学校における通知表等所見の現状～教師のキャリア形成として～”, 日本教育情報学会 第29回年会, 大会論文集, pp.296-297 (2013a)
- (2) 山崎宣次, 森広浩一郎, 掛川淳一, 小川修史, 加藤直樹, 日比光治, 興戸律子: “小学校通知表所見のテキストマイニング”, 日本教育工学会第29回全国大会, 大会論文集, pp.339-340 (2013b)
- (3) 山崎宣次, 掛川淳一, 小川修史, 加藤直樹, 日比光治, 興戸律子, 森広浩一郎: “テキストマイニングによる通知表所見の比較”, 日本教育工学会 研究報告集, JSET 14-1, pp.33-40 (2014a)
- (4) 山崎宣次, 掛川淳一, 小川修史, 加藤直樹, 日比光治, 興戸律子, 森広浩一郎: “特徴単語による小学校通知表所見の教員間比較”, 教育システム情報学会研究報告, vol.28, no.6, pp.207-214 (2014b)
- (5) 山崎宣次, 掛川淳一, 小川修史, 加藤直樹, 興戸律子, 森広浩一郎: “小学校通知表所見の言語分析による教員の力量形成について～所見記述の一般的傾向と課題～”, 日本教育情報学会 第30回年会論文集, pp.178-179 (2014c)
- (6) 山崎宣次, 掛川淳一, 小川修史, 加藤直樹, 興戸律子, 森広浩一郎: “特徴単語を用いた記述支援に向けた小学校通知表所見の分析”, 日本教育情報学会学会誌, 第30巻, 第3号, pp.23-36 (2015a)
- (7) 山崎宣次, 掛川淳一, 小川修史, 加藤直樹, 興戸律子, 森広浩一郎: “校務の情報化としての小学校通知表所見記述支援”, 日本教育情報学会 第31回年会論文集, pp.304-305 (2015b)
- (8) 山崎宣次, 掛川淳一, 小川修史, 加藤直樹, 興戸律子, 横山隆光, 森広浩一郎: “通知表所見に関する教員の意識”, 日本教育情報学会 第32回年会論文集, pp.332-333 (2016a)
- (9) 山崎宣次, 掛川淳一, 小川修史, 加藤直樹, 興戸律子, 横山隆光, 森広浩一郎: “通知表所見に関する教員の意識—アンケートの自由記述から—”, 教育システム情報学会 第41回全国大会論文集, pp.93-94 (2016b)
- (10) 山崎宣次, 掛川淳一, 小川修史, 加藤直樹, 興戸律子, 横山隆光, 森広浩一郎: “小学校通知表所見の特徴単語抽出のためのテキストマイニング手法の比較2”, 日本教育工学会 研究報告集, JSET 17-1, pp.475-482 (2017)
- (11) 小川修史, 田中昌史, 掛川淳一, 森広浩一郎: “児童の変容把握を目的とした小規模校におけるテキストマイニングの有用性に関する検討”, 日本教育情報学会学会誌, 第27巻, 第3号, pp.3-14 (2012)